



今世間で旬の素敵なゲストを迎えての
DPC スペシャル社員研修企画

Vol.1

[開催日] 2017年2月26日(日) 13時30分~17時

[場 所] アーバンネット神田カンファレンス

~20代若者(つくし世代)の強みとは~

若者マーケティング視点で見る 個の活かし方

第1回
ゲスト講師

藤本 耕平 氏
(ふじもと こうへい)

株式会社 アサツー ディ・ケイ
アクティベーションプランニング本部 プランニングディレクター



聞き手
本田 英郎 (ほんだ ひでお) 氏

Profile



講師

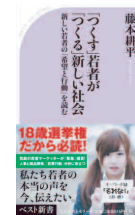
藤本 耕平（ふじもと こうへい）氏

株式会社 アサツー ディ・ケイ
アクティベーションプランニング本部 プランニングディレクター

1980年生まれ。一橋大学卒業。2002年、ADKに入社。
入社から現在まで、14年間マーケティング業務に従事。
担当クライアントは若者をターゲットとしたブランドが中心。

ADK若者プロジェクトリーダー。
情報感度の高い学生メンバーで構成する若者研究部隊「ワカスタ」創設。
“若者”をテーマに、外部セミナーの講演や新聞・雑誌のコラム連載、
大学客員講師などの活動も実施。

著書『つくし世代「新しい若者」の価値観を読む』『「つくす」若者が「つくる」
新しい社会』



聞き手

本田 英郎（ほんだ ひでお）氏

1964年生まれ。編集者、クリエイティブ・ディレクター、教員。東北大学文学部社会学科卒業。
専門はコミュニケーション論。NTT出版（1991年～2007年）にて、書籍・雑誌・展覧会カタログ・映像企画・シンポジウム企画ほか、NTTの文化施設ICCのプロジェクトに参画。機関雑誌『インターコミュニケーション』の編集長を務める。



現在、文化学院総合芸術学科文芸コース長。青山学院大学総合文化政策学部兼任講師ならびに同・青山コミュニティラボ講師。

Program

→ 一部：「つくし世代」を読み解く（藤本氏による講演）

若者分析方法の紹介／従来のマーケティング手法の限界と新しい試み／若者の特徴理解／上の世代との比較から見る若者の意識価値観／若者の良さを引き出す方法／つくし世代の強みの認識とその生かし方

→ 二部：「つくし世代」の理解を深める （藤本氏、本田氏、若者世代によるパネルディスカッション）

【テーマ】

つくしマインド（人のために頑張ること）について／仕事に求めること／理想の上司像／患者さんとのコミュニケーション方法／将来実現したいこと

『つくし世代』新しい若者を知る
～若い世代にもっとアプローチするために～

ADK
アクティベーション・ランニング
監修 関平

今世間で旬の素敵なゲストを迎えての
DPC スペシャル社員研修企画

Vol.1

ご 報 告 書

主催・運営／株式会社デー・ピー・シー
企画・プロデュース／株式会社かたちなきもの



第一回目

DPC スペシャル社員研修企画の研修を終えて

今回のテーマであった世代論、とくに若者論には、常にあやうさがつきまといます。若者とはどの世代を指すのか明確な定義は存在せず、また、誰もが若者である時期を通過しているからです。したがって、「いま（どき）の若者」という言い方から見てくることがあるとすれば、若者とそれ以外の世代の違いをことさら強調するのではなく、むしろ共通点にまなざしを注ぐことで、世代を超えたコミュニケーションの可能性に今一度思いを馳せてみるということではないでしょうか。実践的にいえば、薬局を訪れるお客様は世代を問いませんが、なかでも高齢者の世代とDPCの若く聡明な方々がどのようなお付き合いをしていくことが望まれるのかについて意識的に見直してみることは、とても大切なことだとあらためて思いました。今回の講師（藤本さん）とテーマはそのような理由で選びましたが、これという正解のない課題ですので、研修を通じてさまざまなジャンルの優れたコミュニケーターに出逢い、自分なりのヴィジョンを組み立てていってほしいと思います。

また、こうした研修によって、日常の多忙さからすこしだけ身を遠ざけ、「もの」としての薬を提供する場から、「ひと」と同士の触れ合いを大事にする、信頼と安心のおけるコミュニケーションの場としての薬局へ、といった俯瞰的な思考をしてみることは、わたしたちの意識を改善し、よりお客様満足度の高い仕事へと社員の皆様を誘ってくれるものと確信しています。

今回の研修をふまえて、 今後の研修の方向性を考察

- 【1】それぞれの地域（ローカル）における薬局の役割について、既存の発想にとらわれず柔軟に考えてみる。成功体験の物語の交換も大切である。
- 【2】病院との関係において薬局のもつ積極的な可能性を探求してみる。医者言葉の補うかたちでの、より生活者に近いところでの薬品情報の提供、高齢者とのコミュニケーションの場としての可能性などもより実践的に検討してみる。
- 【3】誰にでも開かれたコミュニケーションの場として薬局を運営していく際に必要なスキルはどんなものなのか、専門知識以外の「伝える技術」「言葉の力」をどう磨いていけばいいのか、についても継続して探求してみる。そうしたことに長けた講師の方々をゲストにお呼びする。
- 【4】ワークショップ形式や対話形式をより充実させることで、参加者のモチベーションをさらに高める。
- 【5】薬剤師を目指す若者が、DPC に魅力を感じ、チャンジしてみたいと思うてくださるようなテーマと人選を選択していく。

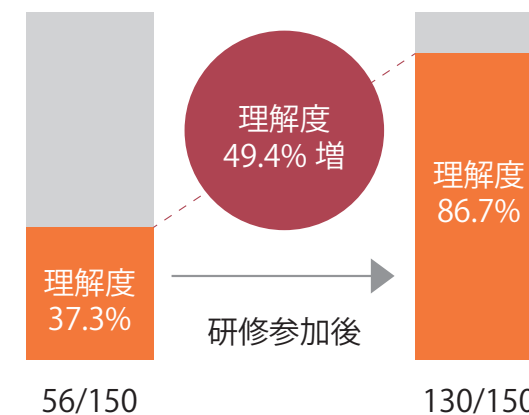
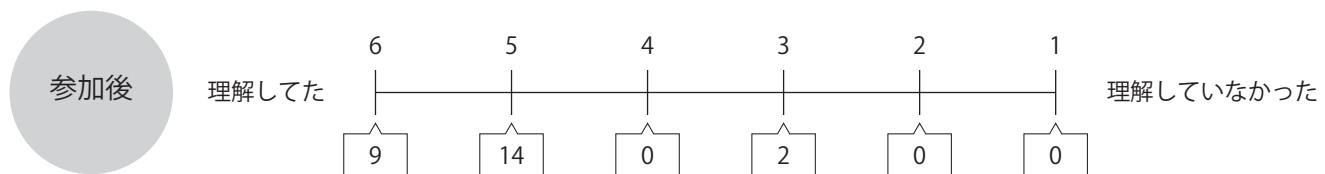
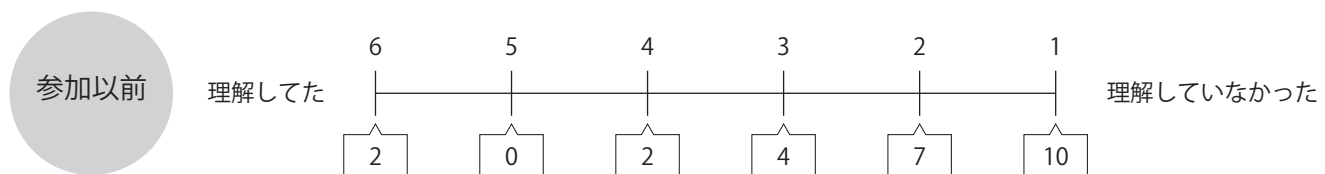
こうした点を考慮しながら、以降の研修を計画していければと思います。総じて、「薬＝もの」ととどまらない情報と安心を提供するコミュニケーターとしての薬剤師の魅力について、また、DPC の目指す 21 世紀の薬局や薬剤師の可能性について、大いに外部に発信していければと考えています。



アンケート結果（1）

1. 今回のイベントについて

イベントに参加前後の【つくし世代】に対する意識の変化を教えてください



アンケート結果（2）

2. 本日のイベントについてのご意見ご感想をお聞かせ下さい

今回のテーマについて

- ・ おもしろい
- ・ 新鮮
- ・ つくし世代を知ることができた
- ・ 自分自身を含め、つくし世代への対応の参考になった
- ・ キャラクターを使い分ける、相手が求める答えに共感
- ・ 自分のものさしの見つけ方を知りたい
- ・ 自分を見つめなおすいい機会だった
- ・ B o s s ではなくリーダーに
- ・ 前から気になっていた。
- ・ 自分自身が該当する世代であり客観的に見ることができた
- ・ 年上の方の今の若者への考え方を知ることができた
- ・ 自分が当たりまえだと思っていることが中高年には理解されないこともある
- ・ もっと多くの方に聞いてほしかった
- ・ 自分自身を振り返ることができた

全体を通して

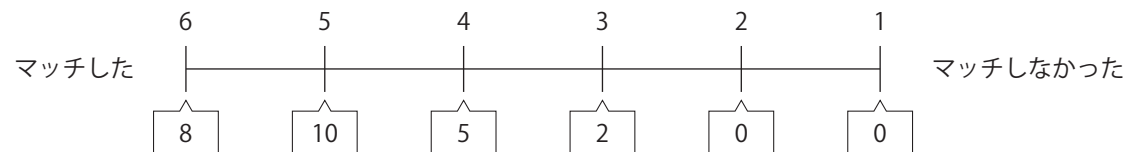
- ・ 若手の参加が多いが他の世代が少なかった。もっと活発な意見交換ができたはず
- ・ 話が面白く若手問題を学ぶことができた
- ・ 講演の部、ディスカッションの部に分かれていてよかった。
- ・ 新人研修に活かしたい
- ・ 考えを広げる、価値観を見直せた
- ・ 指示、命令に感じさせない、伝える技術を心がけていきたい。
- ・ 若い世代、昔の若い世代と考え方の違い、どちらにも良し悪しがある
- ・ 1つのスタイルにこだわらず状況に応じた対応が必要」
- ・ 全員に好かれる薬剤師ではなく個と個でのつながりが強い薬剤師も大切
- ・ 世代によって価値観は異なる。しょうがないこと。お互いを尊重し合う
- ・ 別の価値観を知ることが出来ました

アンケート結果 (3)

3. 今後イベントやりたいこと

- ・ 次回以降も他職種の方との話
- ・ スポーツ選手による精神論
- ・ 経営者による経営論
- ・ 医療の外部の話
- ・ 薬剤師ではない方のトークなら
- ・ 医療という枠組みから離れた内容
- ・ N P L の心理学の面からも考える内容のイベント
- ・ 超高齢者社会に突入する中で必要な医療
- ・ 他の企業の話
- ・ 様々な性格の人や、年代別のコミュニケーションの取り方

4. 今回のイベントの内容はあなたのニーズにマッチしましたか？



124/150